

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人佛子園 三草二木西園寺				公表日	R8年3月5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		小さい事業所であるため近隣の活動場所を活用している。児童の主体性を大切に、活動を選択できるように人員配置工夫している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1		基本的に充足しているが、個別支援が必要な児童が活発に行動する際に、ボランティアなどが見守りでいてくれると安心できる、感じることもある。(長期休暇だけでなく)	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	古い建物であるため全面バリアフリー化は難しいが、通路などはバリアフリーできている。車椅子のスムーズな移動ができない場所がある。特に留意している		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		活動に合わせてジムのスタジオなどに移動している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		主部屋からやや離れた別室があり、必要に応じて使用できる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		ケース会議を定期的に行っている。情報共有はリアルタイムで行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	プログラムの要望や希望をできるだけ取り入れるように意識している。	どの保護者からの要望なのかを共有し、プログラムを盛り込んだことを伝え、参加を促す	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々職員共有ツールで報告しあっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	3	県や市の社協が開催する研修に申し込みをし参加するよう努力している。	職員だけでなく、パート職員も積極的に参加していくように促しが足りていなかったため意識していく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		書面でのアセスメントに加え、気になることについては、直接保護者や相談員と話をしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		連絡帳を導入し、保護者との連絡や情報をタイムリーに得ている。活動の様子をこまめに写真などで報告している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	4	プログラム立案は担当及びサビ管で立案することが多いが、今後はチームで行っていきたい。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		季節もののイベントは例年を参考にしているが、アンケートで聞き取りを行った活動も取り入れている。	集団に特化したものではなく、個別ニーズに対応できる活動を増やしたい。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		職員間で連携し、臨機応変に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	支援開始前の打ち合わせは必ずしも行われているわけではない。前日までにその日の日案が作成され、支援開始前に各々が確認している	外出企画などは実施前に入念に対応スケジュールを確認していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	職員共通ツールで気づいたことを報告している。顔合わせた打合せの時間を行いたい。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		個別支援計画に沿った支援を提供・記録し、後の検証・支援改善につなげられるようにしている。	記述の仕方にバラつきが見られるために、客観的な記載をしていくよう統一していく必要があると思われる
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		必要である場合は相談員に相談し、保護者へのアポイントメントを依頼している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		プログラムに全員が参加。というスタイルではなく、一人一人が取り組みたい活動を優先し、無理強いはいないように、選択できるように声を意識している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		出来るだけ2名体制（サビ管と児童指導員or保育士）で会議に参加している。最も精通した職員と客観的に見る職員。記録は速やかに提出し、回覧・共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		子どもの下校時刻等の確認、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等を行っている。送迎時の対応はマニュアルを掲示し対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		初回の担当者会議に参加してもらい情報共有ができる場を設けている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		移行支援会議を実施している。密に丁寧に行うことで、保護者の不安を軽減できていると感じる。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		児童発達支援センターと定期的に平等に研修や助言を受ける機会を増やしていきたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9		イベント等で地域の子どもと関われる機会が年数回ある。日常的に関われる機会がある環境である。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9		協議会での内容を自施設で取り込めるものを検討し大変勉強になっている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳やSNSを利用し日ごろから情報共有（良いことも困ったことも児童の前後の行動などもありのままを伝える）を行っている。不安定な行動に対しても随時報告を入れている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9			家族支援は相談員さんからのアプローチが多い。今後は相談員さんを交えながら積極的に行っていきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	3	説明を漏らさず行うように、固定職員で実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	2	受けた相談を共有し話し合う時間を設けるようにしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		9		保護者会の計画はしていたが、実施には至らなかった。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		9		タイムリーに対応できている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		9		定期的に発行している。毎月の活動報告（写真や様子）を翌月のプログラムに掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		9			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		9		各々に合わせたコミュニケーションツールを使用している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		9		日常的に地域の方が事業所に入出入りしている。事業所の特徴として、開かれた運営をしており、障害有無のフィルターを感じることが少ない、と保護者さんからもご意見いただいている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2		各マニュアルの策定はしているが、保護者への周知が足りていなかった	各マニュアルの策定はしているが、保護者への周知が足りていなかった
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		9		年に2回避難訓練を実施している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		9		利用前に必ずアセスメントシートへの記入依頼をし、必要時は更新依頼を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		9		医師の指示書ではなく、保護者からの要望に合わせて対応している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		9			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		9		安全が保障されない場合の代替（天候不良による外出企画の変更や、大型事業施設の感染対策に対するお願いなど）が可能性として有りうる場合は事前に説明し、同意を得ている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		9		事故報告・ヒヤリハット事項を回覧し共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		9		年2回（虐待防止・ハラスメント）実施し、全職員が参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		9		保護者からの情報によりやむを得ず必要となることがある児童の場合は十分な説明をし、了解を得るが、実施の前例が無い。	